

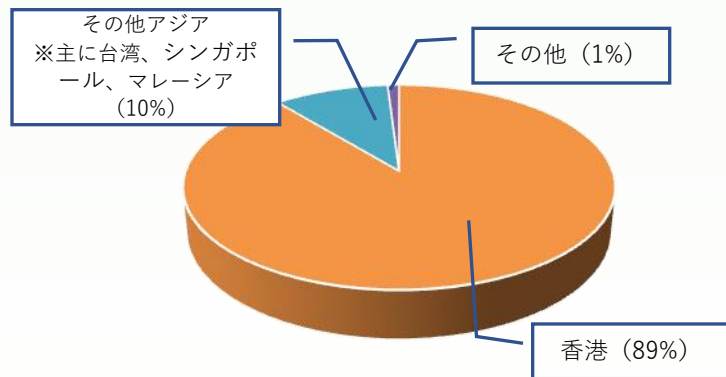
静岡県
クラウンメロン産地計画
(静岡県温室農業協同組合クラウンメロン支所：袋井市)



CROWN MELON

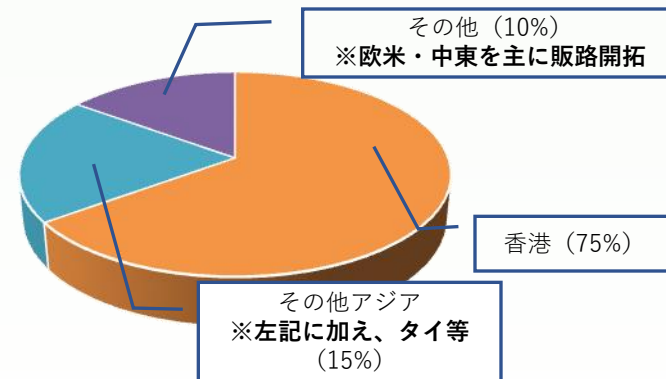
1 現状と目標

現在（2019年）の輸出先



輸出額：240,000千円

4年後（2022年）の輸出先



輸出額（目標）：412,500千円

現在の輸出先の約9割は香港。他のアジア地域を含めるとほぼ100%。ただし、昨今の香港の政情不安を受け、香港への輸出は一時減少。

安定的な輸出事業のためには、そうしたリスク回避のため、複数方面への輸出先の確保が必要と考える。今後の海外販路の拡大を進めるに当たっては、所得水準の高い中東、食への関心の高い欧米諸国に関して、潜在的なニーズは高いと考えられるため、同地域への販促開拓アジア地域と並行して進める。

2 輸出ターゲット各地域の状況

欧州（英国、フランス）

- ・食に関する関心が高く、潜在的需要あり
- ・世界中への情報発信の拠点となり得る
- ・残留農薬基準厳しい、加工品はHACCP必須
- ・欧州産の安価なメロンとの明確な差別化必要

米国

- ・米国側の輸入解禁待ち
（米国側にて病害虫リスク評価中）

東南アジア（香港、台湾、タイ等）

- ・メロンの輸出額は年々増加
- ・政情不安あるが、今後も需要拡大の見通し
- ・残留農薬規制強化の方向（台湾）
- ・病害虫に関連した輸入規制の強化（タイ）

中東（UAE、カタール）

- ・王族をはじめとした富裕層の購買力が高い
- ・高級メロンの需要が拡大中
- ・青果物の輸入規制が比較的緩い

弊所自ら輸出先の管理に努めるとともに、時期に応じて各地域のニーズを的確に把握し、求めるものを適正な価格で販売することで、組合員の所得向上に繋げる。

3 課題と取組内容

相手国規制への対応

輸送手段・鮮度保持

安定的な生産体制

現状・課題

- ・ 海外での残留農薬基準等の輸入規制は厳しくなる方向
- ・ 海外向け栽培体制が整わなければ、今後輸出不可になる可能性もある

- ・ 輸出実績の少ない地域への輸送について、輸送コストが非常に高い
- ・ 輸送時の保管状態が一律でなく、仕向地到着時の果実の状態が予測困難

- ・ 高齢化に伴い、生産者、生産量ともに減少傾向
- ・ 栽培の手間や難しさから新規就農が見込めない
- ・ 生メロンのみ輸出しているため、顧客への柔軟な提案が難しい

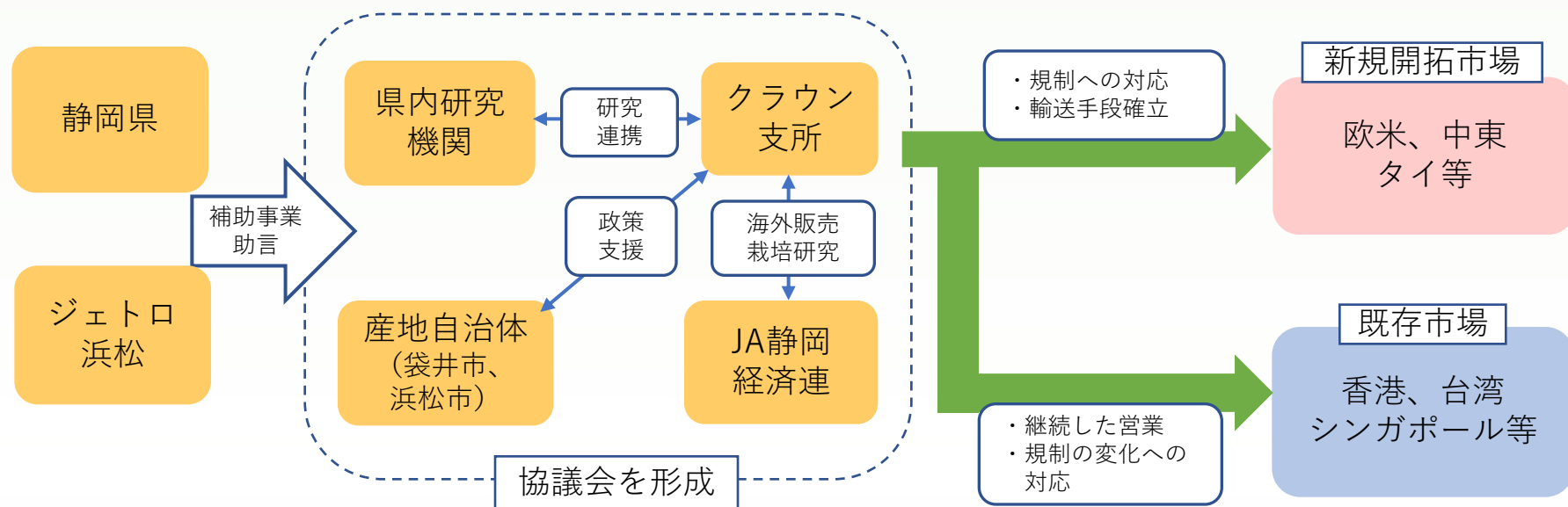
取組内容・目指す方向性

- ・ 相手国の残留農薬基準をクリアできる栽培体系を確立すべく、限られた農薬使用での試験栽培の実施
- ・ 国際認証(HACCP、GGAP)取得も視野に入れた、生産加工施設の整備

- ・ 中間コストを抑えかつ最適な輸送手段の検討及び実用化
- ・ 手間のかからず、費用対効果の高い鮮度保持技術の研究及び実用化

- ・ 栽培技術のマニュアル化により、一定品質のメロンを安定的に生産できる体制の確立
- ・ 冷凍メロン等、生メロン以外の輸出商品の開発と輸出

4 取組体制



JA静岡経済連、防除研究所等関係機関や行政と共に協議会を設置し、静岡県及びジェトロ浜松の輸出支援を受け、PDCAサイクルにより検証を進めることで、より効果の高い事業の実施に努める。

5 事業スケジュール

年度	計画
2019年	・課題の把握と産地計画の策定 ・研究温室での試験栽培（～2021年） ・先進取組施設、輸出関連事業者の視察 ・国際認証取得の取組（HACCP、GGAP等）（～2021年）
2020年	・海外向け防除暦の作成、実証試験（～2021年） ・輸送・鮮度保持実験（～2021年） ・輸出向け加工品の研究（～2021年） ・栽培技術のマニュアル化（～2021年） ・海外事例調査
2021年	・海外向け防除暦の組合員への普及 ・諸外国での試験的プロモーション ・更なる減農薬・有機栽培への取り組み
2022年	・欧州及び台湾向け残留農薬基準内での生産体制の確立 ・輸出相手国の求める基準をクリアできる国際認証の取得 ・輸送・鮮度保持技術の実用化 ・品質の安定化（栽培技術の数値化による次世代への技術の継承）等

計画
実行

成果